

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会 一般質問

## □質問順位及び質問所要時間

6月15日(月)午前10時～

- 1 佐藤 大 介 議員 (60分)
- 2 湯瀬 弘 充 議員 (30分)
- 3 成田 哲 男 議員 (30分)
- 4 保田 直 美 議員 (30分)
- 5 中山 一 男 議員 (30分)
- 6 奈良 明日香 議員 (45分)
- 7 丸岡 孝 文 議員 (30分)

6月16日(火)午前10時～

- 8 栗山 尚 記 議員 (60分)
- 9 安保 真 希 議員 (30分)
- 10 綱木 裕 一 議員 (30分)
- 11 松村 託 磨 議員 (30分)
- 12 赤坂 勲 議員 (30分)

## □質問時間割当表

10:00	11:00	11:10	11:40	12:10	13:00	13:30	14:00	14:10	14:55	15:25
6月15日 (月)	佐藤大介 (60分)	休憩 10分間	湯瀬弘充 (30分)	成田哲男 (30分)	休 憩	保田直美 (30分)	中山一男 (30分)	休憩 10分間	奈良明日香 (45分)	丸岡孝文 (30分)

10:00	11:00	11:10	11:40	12:10	13:00	13:30	14:00
6月16日 (火)	栗山尚記 (60分)	休憩 10分間	安保真希 (30分)	綱木裕一 (30分)	休 憩	松村託磨 (30分)	赤坂 勲 (30分)

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	1	質問者	佐藤 大介	質問所要時間	60分
質問事項				質問要旨	
1 害獣対策について					
(1) ツキノワグマ対策について				<p>① クマダスによると、今年度5月末時点で市内での目撃等は31件と前年同時期と比べ7件増となり、生活圏に出没し人の食べ物の味を覚えたツキノワグマの出没傾向は、次の段階に移ったのではないかと感じている。もはや柿や栗の木の伐採だけでは、出没抑制は困難であり、生活領域への侵入経路を断つ必要がある。</p> <p>私は「雑草の茂った河川や用水路」が獣道になっていると考えており、そこを一定程度管理できれば生活領域への出没を大分抑えることができると考える。</p> <p>河川管理者や土地改良区等管理の及ばない部分があるのは、重々承知しているが、国や県の協力を仰ぎながら実験的であっても適切に管理・刈払い等の対策を講じる価値はあると考えるが、市長の見解を伺う。</p>	
(2) イノシシ対策について				<p>① 本市のイノシシ目撃等は昨年度37件、今年度は5月末時点で18件と急増し、水田畦畔の崩壊等農業被害を警戒すべき初期から発展段階にある。また、市内約6万頭、小坂町を含め鹿角地区で計12万頭が飼養されている豚への「豚熱」伝搬は極めて重大な懸念事項であり、万が一流行すれば被害は甚大となることは明らかである。</p> <p>これら農業生産被害や重大な防疫対策、人的被害の防止を踏まえ、本市におけるイノシシ対策の現状、課題認識、及び今後の具体的な施策方針について、市の考えを伺う。</p>	
(3) ニホンジカ対策について				<p>① 本市では平成23年に最初のニホンジカが目撃例が確認され、ここ数年は数件から十数件の推移で大きな被害には至っていない。しかし、定着すれば稲の葉や果樹の樹皮など幅広い植物への食害による農産物被害が予想され、徐々に対策を考えていく必要がある。将来的な農業被害及び人身被害を未然に防ぎ、適切な防除体制を構築していくために、ニホンジカ対策に関する本市の現在の取り組み状況、課題認識、今後の施策方針について市の見解を伺う。</p>	

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	1	質問者	佐藤 大介	質問所要時間	60分
質問事項				質問要旨	
(4) 児童生徒の安全対策について	<p>① 花輪小学校PTAから市教育委員会に対し、通学時の被害予防対策について要望があったと聞き及んでいる。これまでも児童生徒への熊よけ鈴の貸与などの対策を講じてきており、通学全体から見る被害数としても十分に対策が功を奏していると評価している。</p> <p>しかし、依然として目撃件数は減っておらず、遭遇確率が上がるのではないかと心配する児童生徒の親の気持ちも理解できる。そこで、児童生徒の害獣に対する安全策として市及び市教育委員会の現状把握と課題認識について伺う。併せて今回の要望に対し、検討している対策等について伺う。</p>				
2 効率的な行財政運営（市町村合併や道州制）について	<p>① 2025年国勢調査速報で秋田県の人口減少率が全国最大の8.1%、本市は11.9%を記録した。急激な人口減少下で行政サービスや市民のウェルビーイングを維持するため、拠点病院の集約やごみ処理施設の統合、学校再編などの広域化が想定される。青森・岩手両県に接し、県境を越えた結びつきが強い本市において、一層行政サービスの様々な面で効率化や広域化が進んでいくことも想定される中、公共インフラ等にメリットが多い道州制「北東北州」の発想や、将来的な「市町村合併」に対する市長の考えを伺う。</p>				
3 地元就職の推進について	<p>① 市内高校生の就職における県外志向の増加や人手不足が報道された。多種多様な経済需要に応える職業規模が都市に集中する中、本市に若者が自己実現を図れる職場がない現状は残念であり、一次産業に携わる立場からも、若い世代が魅力と誇りを感じられる仕事環境をどう創出するか苦慮している。</p> <p>そこで、地域の子供たちの地元就職を促進し、人材を定着させるために本市としてどのような方針や産業施策のもと魅力ある職場環境を実現し活性化を図っていくのか、市の考えを伺う。</p>				
4 指定管理の現状と公契約条例について	<p>① 教育委員会も含めた市全体の公共施設数、指定管理となっている施設数及び従事者数について各施設の区分ごとの詳細な内訳を伺う。</p>				

## 令和 8 年第 4 回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	1	質問者	佐藤 大介	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
5		リチウムイオン電池の回収について		<p>② 指定管理期間は 1 回の指定で最長 10 年と思われるが、再指定も含め、同一の施設を何年管理しているか伺う。</p> <p>③ 指定管理候補者の選定に当たり、公募・非公募を問わず選定や協定締結時に応募者の経費積算内容を詳しく精査しているか。また昨今の物価高騰や人件費の上昇、従事者の勤務年数に合わせた昇給状況などを十分に考慮し、適切な検討や助言を行っているのか。また、各年度に係る協定締結の際にも同様の検討を行っているか伺う。</p> <p>④ 県内でも広がりを見せる公契約条例は、市が契約する工事や委託業務、指定管理における地域雇用の安定や適正な労働条件の確保、成果物の品質担保等を目的に定めるものである。 昨今の物価・人件費の高騰を踏まえ、安定的な契約の実現にも資することから、本市において公契約条例を新たに制定することについて、市の見解を伺う。</p> <p>① リチウムイオン電池は落とした際の衝撃などによる液漏れや、そこから生じる激しい発火現象の危険性が広く認知されている。しかし、一見すると破損しているかどうか判別しにくいことも多く、これが廃棄物としての適切な回収や分別処理の難度を著しく高めている。 市としても現場での対策に苦慮しているものと推察されるが、本市におけるリチウムイオン電池回収の現状、課題、今後の方向性について市長の見解を伺う。</p>	
6		学校給食無償化について		<p>① 笹本市長就任時の所信表明に掲げられた「小中学校給食費の無償化」だが、小学校の無償化は実現されたものの、中学校については現在も一部の助成にとどまっている。 中学校給食完全無償化に向けた現状、課題、今後の方向性について、市長の考えを伺う。</p>	

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30分
質問事項			質問要旨		
1		自転車交通安全と道路環境整備について (1) 青切符制度開始の周知・啓発について  (2) 道路環境整備について		① 道路交通法改正により、自転車利用に関する罰則強化や青切符制度の導入など、自転車利用者を取り巻く環境は大きく変化している。ながら運転や酒気帯び運転など危険行為への厳罰化は重要である一方、その内容が多岐にわたり、市民の理解が十分に進んでいないとの声も聞かれる。特に、学生については学校を通じた周知が可能であるが、高齢者については情報を得る機会や理解の面で課題も多いと考える。また、自転車利用者だけでなく、自動車運転者側に対しても、自転車との安全な距離の取り方や追い越し方法などについて周知が必要ではないか。 市として、制度改正に関する市民周知をどのように行っているのか。また、今後どのように周知・啓発を進めていく考えか伺う。  ① 自転車利用に関する制度改正が進む一方で、道路環境整備が追い付いていないのではないかとの声も多い。特に本市は雪国であり、除雪後の道路幅員減少や冬季の路面状況など、都市部とは異なる課題を抱えている。現状では、自転車が安全に車道を走行できる環境とは言い難い箇所も見受けられる。また、歩道走行可能を示す標識についても設置間隔が広く、市民にとって分かりづらい状況がある。さらに、自転車通行位置を示す矢羽根やピクトグラムなどの整備も十分ではないと感じる。制度と道路環境の整合性について、市はどのように認識し、また、市内において安全上課題がある箇所をどの程度把握しているのか伺う。併せて、県や国、警察とも連携しながら、安全で分かりやすい道路環境整備を進めるべきと考えるが、市の見解を伺う。	

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30分	
質問事項				質問要旨		
2		スクールバスと通学の安全について		<p>① 人口減少や高齢化が進む中で、地域公共交通の維持と移動手段確保は大きな課題となっている。現在、本市におけるスクールバス利用については一定の条件が設けられているが、遠距離通学だけでなく、交通量や道路状況、熊出没など地域事情を踏まえた柔軟な対応も必要ではないかと考える。また、スクールバスについては、通学時間帯以外の時間帯における活用や、買い物困難地域に住む高齢者の移動支援など、地域公共交通としての有効活用も検討できるのではないかと考える。現在の利用条件と運用状況はどのようになっているのか。また、地域実情に応じた柔軟な運用や用途緩和について、市の考えを伺う。</p>		
		(1) 利用条件の用途緩和について		<p>① 今年も市内では熊の目撃情報が相次ぎ、児童生徒の通学に対する不安が高まっている。特に、バス停留所で待機している際に熊が出没した場合には逃げ場がなく、保護者からは不安の声も聞かれる。また、現状ではバス停まで保護者が送迎しているケースも多く、保護者の負担も大きい。そのため、地域の実情に応じた停車位置の見直しやバス停増設など、より安全性を重視した運用が必要ではないかと考える。</p> <p>市として、通学時における熊対策をどのように考えているのか。また、バス停留所増設や停車位置の柔軟な見直しについて、市の見解を伺う。</p>		
		(2) 鳥獣被害対策と通学の安全について		<p>① 今年も市内では熊の目撃情報が相次ぎ、児童生徒の通学に対する不安が高まっている。特に、バス停留所で待機している際に熊が出没した場合には逃げ場がなく、保護者からは不安の声も聞かれる。また、現状ではバス停まで保護者が送迎しているケースも多く、保護者の負担も大きい。そのため、地域の実情に応じた停車位置の見直しやバス停増設など、より安全性を重視した運用が必要ではないかと考える。</p> <p>市として、通学時における熊対策をどのように考えているのか。また、バス停留所増設や停車位置の柔軟な見直しについて、市の見解を伺う。</p>		
		(3) 花輪小学校PTAからの要望について		<p>① 花輪小学校PTAから市教育委員会に提出されている「クマ対策強化に関する要望書」については、児童の安全確保に関わる重要な内容であると認識している。通学環境の安全性は、保護者や地域住民にとって非常に関心の高い事項であり、迅速な対応が求められる。</p> <p>市として、提出された要望内容をどのように受け止めているのか。また、今後どのように対応していく考えか伺う。</p>		

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
<p>3 災害対策について</p> <p>(1) 災害時における情報伝達の可視化について</p> <p>(2) 避難所の備蓄状況と設備について</p>	<p>① 新たに導入された119番映像通報システムにより、市民から消防等への通報時に、映像や位置情報を活用しながら迅速な状況把握が可能となった。一方で、市側から市民へ配信される災害メールや防災情報は、文章のみの情報提供が中心であり、「どこで」「どの程度」危険なのかが分かりづらいとの声もある。</p> <p>特に豪雨災害時などは、「冠水箇所」、「河川危険区域」、「土砂災害危険箇所」、「避難所位置」、「通行止め箇所」などについて、正確な位置情報を視覚的に把握できることが重要であると考え。近年はスマートフォンや地図アプリが広く普及しており、地図情報や画像を活用した災害情報の可視化は、市民の迅速な避難行動や安心感向上につながるものと考え。</p> <p>本市として、災害時における情報伝達の在り方をどのように考えているのか。また、位置情報や地図情報を活用し、市民へ視覚的かつ分かりやすく情報提供できる仕組みの導入について、市の見解を伺う。</p>				
	<p>① 近年、全国各地で大規模地震や集中豪雨による災害が頻発しており、本市においても災害への備えの重要性が高まっている。特に近年は地震が相次いで発生しているほか、線状降水帯による豪雨災害なども全国的に増加しており、市民の防災意識や不安も高まっている。</p> <p>災害発生時には避難所が重要な役割を果たすが、高齢者や子供、障がい者など、さまざまな立場の避難者が安心して避難生活を送るためには、十分な備蓄や設備整備が必要である。</p> <p>現在、本市の避難所における食料、水、簡易トイレ、毛布、発電機などの備蓄状況はどのようになっているのか。また、空調設備や通信環境、非常用電源の整備状況はどうなっているのか伺う。</p> <p>併せて、避難生活におけるプライバシー確保も重要な課題である。特に、女性や高齢者、子供を含め、多くの避難者が共同生活を送る中で、パーティションや簡易個室などの整備は安心して避難生活を送るために必要不可欠であると考え。現在のパーティション等の配備状況や、避難所環境改善に向けた今後の整備方針について、市の見解を伺う。</p>				

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	3	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30分	
質問事項				質問要旨		
1		鹿角地域の山林火災の危険について		①		岩手県大槌町で大規模な山林火災が起こり、本市からも隊員が出動し消火活動等に尽力された。本市でも林野火災が発生する可能性があるが、大規模な被害にならないための対策について伺う。
2		かづの未来の創り手育成事業について		①		2027年度から実施する「鹿角市若者議会」に向けて、キックオフミーティングが開催された。検討委員会の設置を含め、今後どのような計画で進めていくのか伺う。
3		医師確保対策事業について		①		今年度から医師修学資金貸与制度を利用した医師が、かづの厚生病院に就業したと伺っている。市内の医療機関に従事するのは初めてのことのようだが、今後も本市での勤務を継続される見込みか伺う。
				②		この制度で医師免許を取得した方は5人で、医学部に在学している方は4月に入学した学生1人を加えて4人と伺っている。免許を取得した方は将来本市で勤務されるのか。また、在学中の方が順調にステップアップし、医師になるまでどのくらいの期間が必要なのか伺う。
4		農業振興ビジョンについて		①		今年度、農業振興ビジョンを策定する計画と伺っているが、どのようなものを目指し、どのように進めていくのか伺う。
5		最低賃金の引き上げの影響について		①		今年、3月31日に県の最低賃金が1,031円に引き上げられた。本市において引き上げた企業への影響について把握しているか伺う。
				②		県は昨年に緊急支援金を予算措置したが、本市の企業の申請状況はどうか。また、本市独自の支援策は検討されたのか伺う。

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	3	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30分	
質 問 事 項				質 問 要 旨		
6		小中学生のウェルビーイングについて		① 2025年度の小中学生のウェルビーイング指標について、本県が全国で最も高い結果であるという記事があった。県の3月策定の教育大綱には、施策を進める基礎に子供のウェルビーイングの向上が据えられたとある。本県が全国でも高い数字であることをどう分析するか伺う。		

## 令和 8 年第 4 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	保田 直美	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1		人口減少社会における外国人材の戦略的受け入れと、自治体としてのガバナンスについて (1) 本市における外国人労働者の現状把握と課題について  (2) 地域日本語教育の体制整備と将来への投資について		① 近年、日本に住む外国人は増え続けており、秋田県における外国人労働者は昨年 10 月時点で過去最多の 3,993 人、外国人を雇用している企業は 837 事業所で前年より 108 事業所増となり、急増している。 外国人の受け入れが進む一方で、生活支援や日本語教育、地域でのつながり作りなど、定着に向けた環境整備が求められる。本市が持続可能であるためには、外国人材を単なる「労働力」とするのではなく、本市の文化やルールを理解し、共に地域を支える「新しい鹿角市民」として責任を持って育成・定住を促す視点が必要であると考えます。 そこで、本市の外国人労働者数、在留資格の種類、従事している産業分野など、現状をどの程度把握しているか伺う。また、監理団体や登録支援機構、受け入れ企業との情報共有体制、及び現状の課題についても伺う。  ① 人口減少社会における将来投資として外国人住民を単なる労働力ではなく、孤立せず、地域の一員として暮らすために、日本語教育が最重要のインフラである。言葉が通じないことは、市民にとっても不安や恐怖につながる。 本市では鹿角国際交流協会により様々な事業が展開されているが、国は令和 7 年度に「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」を改訂し、自治体に対して、外国人住民の実態把握、日本語教育の強化、相談体制の整備、生活支援、企業支援などを求めるとともに、単に受け入れだけでなく地域の一員として安心して暮らし、働き続けられる環境を整えることを自治体の責務として明確に位置付けている。 このことを踏まえ、本市としての今後の具体的な検討状況と体制強化策について伺う。	

## 令和 8 年第 4 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	4	質問者	保田 直美	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
		(3) 外国籍住民・外国人労働者の受け入れを巡る課題と自治体の責任について		① 近年、外国人技能実習生の失踪及び不法就労を巡る問題が、各地で顕在化している。本市において、外国人の不法就労について、これまでに把握している事例はあるか伺う。  ② 仮に住民から苦情や相談等を通じて、外国人住民の就労実態や居住実態に疑義が生じた場合、初動として住民登録の有無や在留資格について、どのような手順で確認を行うのか伺う。  ③ 在留資格の期限切れや、住民登録上の住所と実際の居住実態が一致しない場合など、齟齬が生じた場合や、在留資格や居住実態に疑義が生じた場合、それを行政として把握する仕組みは整備されているのか伺う。	
		2 「子ども・子育て支援金」による住民負担増の問題と「こども政策の適正化」について		① 2026 年度 4 月より、「子ども・子育て支援金」の徴収が始まった。この制度は、公的医療保険、つまり健康保険や国民健康保険などの保険料に上乗せする形で徴収される新たな負担制度である。今後、日本全体で総額 1 兆円に向けて段階的に引き上げられていく「子ども・子育て支援金」が、医療保険の仕組みに便乗した「ステルス増税」として徴収されることに対し、物価高に苦しむ本自治体の住民生活、特に若い世代の可処分所得や地域経済に与える影響をどのように認識されているか伺う。	
		(1) 段階的引き上げの恐怖と不公平感の構造による住民生活及び地域経済への影響認識について		① 人生初期の可処分所得への圧迫は、後から給付を増やしても回復できない可能性がある。結果的に少子化対策としては逆に事態を深刻化させるおそれがあるなど、極めて問題がある制度と言える。 こども家庭庁の令和 8 年度予算が 7 兆 5,000 億円規模へと肥大化する一方で、30 年間の少子化対策が出生数半減という結果に終わっている事実を踏まえ、地方行政を担う本市の立場から、国の政策の実効性、納得感、そして E B P M における費用対効果について、どのような見解を持っているのか伺う。	
		(2) 若年層の可処分所得の圧迫と少子化の本質を鑑み、国の少子化対策の実効性と費用対効果への評価について			

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	4	質問者	保田 直美	質問所要時間	30分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(3) 30年の失敗と「取って配る」政治への疑問による地方から国への働きかけ、及び負担軽減策について			① 国は日本全体で徴収される支援金の総額を年間6,000億から1兆円に段階的に引き上げる計画を決定している。こども家庭庁の予算を7兆5,000億円に拡大しているにもかかわらず、さらに医療保険から別財布で1兆円を取ろうとしている矛盾がある。 こども家庭庁の予算縮小・廃止を含め、効果の薄い事業や組織の抜本的見直しを国に促せば、支援金の上乗せ停止や社会保険料自体の引き下げが可能となる。住民の過度な負担を軽減するため、本市としても関係機関へ要望するなど、地方から国へ強く是正を働きかけるべきと考えるが、市の見解を求める。		

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	中山 一男	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
1			世紀越えトンネルの整備促進について	①	各種同盟会や市町協議会等が30年近くも要望活動してきたが、いまだ実現に至っていない実情を、市長は市長として、八戸・能代間、北東北横断道路整備促進期成同盟会の会長として、どのように受け止めているか。また、今後実現に向けて、市としてどのような対策を講じていくのか伺う。
2			市道「不老倉線」の整備について	①	世紀越えトンネルのバイパス整備促進に向け、市道不老倉線の整備も必要と考えるが、本市としても市道の整備について何らかのアクションを起こしていかなければならない時期と考える。市は不老倉線の整備をどのように考えているのか伺う。
3			(仮称)世紀越えトンネル整備構想の策定について	①	市民の方々の理解を得る手段として、また、国・県・地元選出国會議員等に強く要望するためにも、市において「(仮称)世紀越えトンネルの整備構想」を策定してはどうか、市の考えを伺う。
4			東山総合運動公園内の桜について	①	4月は東山総合運動公園内の桜がきれいに咲いて絶景である。 市民の方々はもちろん、北東北圏内からの誘客による交流人口の拡大を図る意味においても、「(仮称)さくらまつり」を開催できないか。 また、期間中公園内の敷地を無料開放し、市民の憩いの場として提供するとともに、物産販売、飲食コーナーなどを設置し、施設や物産のPRに努め、さらに、開催時期や期間、臨時バスの運行、イベント内容について商工会や関係団体と協議し、地域の活性化に取り組んではいかがかと思うが、市の考えを伺う。
5			花輪小学校への通学路(館坂)の通行止めについて	①	館坂は、急傾斜地崩壊危険区域(中花輪一号地区)として、秋田県が指定している。ここの改良工事は県が実施するのか、市が実施するのかわからないが、早急に改良しなければ、学校敷地内の崩壊にもつながりかねない。速やかに改良すべきと思うがいかがか。また、通行止めはいつまで続くのか併せて伺う。

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	5	質問者	中山 一男	質問所要時間	30分	
質 問 事 項				質 問 要 旨		
6		インバウンド誘客強化対策について		① インバウンドの誘客強化対策として、新年度予算には目新しい事業はなかったが、今年度の冬季誘客に向けて、具体的にはどのような対策を行っていくのか。また、冬季ばかりでなく、本市には世界遺産をはじめ、春夏秋冬、四季折々の魅力があるが、それらを活用した具体策について伺う。		
7		大館能代空港へのアクセス手段について		① インバウンド対策のほか、国内の観光客等の利用、さらには、市民の利用促進に向けて、せめて東京3往復化に合わせダイレクトにつながるリムジンバスや、たんぽこまち号のような運営方法によるアクセス対策を講じられないか、市の考えを伺う。		

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	奈良 明日香	質問所要時間	45分
質問事項				質問要旨	
<p>1 鹿角市若者議会について</p> <p>(1) キックオフミーティングの形式及び今後も含めた周知方法について</p> <p>(2) 類似事業との連携・集約及び報酬制度の公平性について</p>	<p>① 先日開催されたキックオフミーティングでは、参加者 40 人程度に対して若者は 10 人程度であった。会の内容も参加者の意見が抽出されず、質疑応答も質問するのは大人のみで、会に参加した貴重な若者の意見を聞くことができず、アンケートなども取られていなかった。市民に若者議会とは何かの説明をする場という意味では成り立っていたが、若者議員を目指す若者の意見がそこで抽出できたかという点では懸念が残る。</p> <p>また、先進地の愛知県新城市も 18 歳以上の若者の参加及び周知に苦戦されているとのことだった。おそらく事前の視察等でその現状に関し、市は把握されていたかと思うが、それでも少年議会ではなく、若者議会を目指されたということは、その年齢層を重要視されてのことかと考える。</p> <p>市はどのように分析し、アプローチしていくのか。例えば 18 歳以上の層がよく見る SNS の種類の把握などはされているのか。市長の戦略を伺う。</p> <p>② 若者議会には報酬制度が設けられている。この取り組みに関してはとても良いものと評価しているが、一方で本市にはかづの未来の若者会議や、かづの未来アカデミーなど、「未来」や「若者」がつく取り組みが複数あるがこれらに報酬はない。</p> <p>3 月定例会の一般質問でもそれぞれ目的が異なるとは伺っているが、報酬の有無に差があると参加者のモチベーションやそもそもの参加率の差につながるのではないかと。また対象年齢層が重複しており、結果、人材の奪い合いや事業の質低下を招く懸念はないか。</p> <p>応募者確保に向けた他事業への報酬適用や、類似事業の集約化・統合について市の見解を伺う。</p>				

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	6	質問者	奈良 明日香	質問所要時間	45分
質問事項				質問要旨	
2		鹿角市医療ビジョンについて (1) 策定スケジュールについて		<p>① 医療ビジョン策定が今年度末であるが、それに対しかづの厚生病院の運営方法の確定が来年度となっている。教育民生常任委員会の際の話からかづの厚生病院の存続は市民の生活に大きく関わるとの認識と見受けられる。それならば医療ビジョン策定にもこのかづの厚生病院の問題は大きく関わるとは思わないか。策定スケジュールはもう決定されていると思うが、スケジュールありきではなく、パブリックコメント前の段階で、おおむねの方向性を市民に説明・提示する考えはないか伺う。</p>	
		(2) パブリックコメントの実施及び周知方法、市民の声の抽出方法について		<p>① 策定スケジュールでは、来年1月から3月の中でパブリックコメントをされると示されているが、パブリックコメントは毎回声も少なく、そもそも実施されていると知らない市民もとても多い。市のホームページでも一覧ページが設けられてはいるが、それにすべてのパブリックコメントが掲載されている訳でもない。果たしてこれで市民の声を把握できていると言えるだろうか。</p> <p>また、地域医療ミーティングが6月7日に十和田、14日に尾去沢で開催され、花輪と八幡平では出前講座で対応していくとしているが、出前講座は市民からの要望がないと開催されず、システム上要望を待つ受け身の体制となってしまう。</p> <p>市民生活にとって医療問題は大きく関わる問題だと市民アンケートでも明らかにされているが、今の方法で本当に市民が納得できる医療ビジョンが策定できるか。市としての見解及び対策を伺う。</p>	
3		高齢者の祝金の廃止について		<p>① 高齢者の祝金が今年の3月末で廃止となったが、なくなる話が出てからなくすまでのスピードが速すぎたのではないか。今まであったものが急になくなるのは、それを楽しみにしていた市民にとってのショックは計り知れず、実際戸惑いや怒りの声も届いている。</p> <p>本市の限られた財源の中、縮小、廃止もやむを得ないものと考えますが、だからこそ丁寧な説明やケアが必要である。現状、市にはどのような声が届いているのか。</p> <p>また、教育民生常任委員会の中で、市民に対し丁寧な説明をしてほしいと提言したが、説明会などを開く予定や、なくなった祝い金に代わる代替案などを設ける考えはないか伺う。</p>	

## 令和 8 年第 4 回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	6	質問者	奈良 明日香	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4		中東情勢による市内企業への影響について (1) 市内事業者及び市民生活への影響把握と現状の認識について  (2) 「重点支援地方交付金」の活用と本市独自の支援策について		<p>① 中東情勢の緊迫化により全国的、世界的にも価格高騰、生産停止、納期遅れなど、影響は広範囲に生じている。市内企業も例外ではないが、市はその現状の調査や分析をされているのか伺う。 また、世界的問題から自治体単独での大規模な支援は困難であると認識しつつも、今後影響の長期化・悪化が懸念される中、相談窓口の拡充や、市独自の伴走型支援、市民への生活防衛策など、どのようなケア・支援を考えているか併せて伺う。</p> <p>② 先日報道された国の 2026 年度補正予算案において、地方の判断で活用できる「重点支援地方交付金」に 1,000 億円が計上され、地方で利用割合が高い L P ガス(プロパンガス)や事業者の特別高圧電力の料金低減が目的として示された。寒冷地であり L P ガス利用者の多い本市において、この交付金や支援等、どのように活用していくか、方向性を伺う。</p>	

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
1		上沼地区での風力発電事業環境影響評価方法書に対し提出した市長意見の反映状況について		<p>① 市長が提出した意見書の内容が、事業者が国に提出した方法書にどのように反映されたか、市は具体的に確認したのか。反映された項目と、反映されていない項目を明確にお示しいただきたい。</p> <p>また、反映されていない項目があった場合、市は事業者に対してその理由を確認したのか。確認していないのであれば、その理由を伺う。</p>	
2		地域住民への事業説明による住民理解の確保について		<p>① 経済産業省の環境審査顧問会では方法書の公告後の地元説明会での説明内容と大きく異なる説明がされている。また、過去の発言を変更することや住民要望の対応引き延ばし発言など、市民からは調査のほとんどに「方法の具体性がない」との指摘があるが、市はこれらの説明内容や状況を把握しているか。市長意見では「丁寧かつ十分な説明」「誠実な対応」を求めているが、現状の事業者の説明はその水準を満たしているかと判断しているか。満たしていない場合、市としてどのような改善を求めるか伺う。</p>	
3		市の旧花輪鉦山跡地への大型風車建設の危険性の認識について		<p>① (仮称)鹿角東部市民ウインドファーム事業の説明会では、旧花輪鉦山の坑道位置について「把握できていない」との発言があり、資料にも同様の記載がある。この段階で、基礎を含め数千トン規模の大型風車を6基建設する計画について、市は地盤の安全性をどのように評価し、事業者にどのような確認を行ったのか伺う。</p> <p>② 米代川は鹿角市のみならず、大館・北秋田・能代など下流自治体の生活・漁業・観光資源を支える重要な河川である。旧鉦山由来の亜鉛・鉛・カドミウムなどの重金属が、工事や建設後の地盤変動により流出しないとする明確な根拠、そして万が一流出した場合の対応策について、事業者に追加で求めるべきと考えるが、市の見解を伺う。</p>	

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
4		市長の「中立」発言と自治体の環境保全責任について		<p>③ 旧花輪鉦山エリアについて、市長意見書には一切の記載がない。しかし説明会では、市民から「建設には不適切なエリアである」との指摘があり、旧鉦山で就労していた方からも、軟弱地層であること、現在も鉦害水処理が続いていることから、工事による重金属汚染水の流出リスクは否定できないとの意見が示されている。</p> <p>まず、市はこれらの市民の声や専門的知見をどの程度把握し、どのように評価しているのか伺う。その上で、地下の坑道位置や地盤状況が科学的に安全と確認されるまでは、当該エリアでの風車建設を行わないよう、事業者に対して明確に求めるべきと考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>① 市長は、風力発電事業への賛否は「中立」と繰り返し述べているが、環境影響評価において自治体は環境保全の立場から意見を述べる責務がある。市長の言う「中立」は、環境保全責任まで中立にするものではないと考えるが、市長の認識を伺う。</p> <p>② 中立を理由に、事業者への指導や要求が弱くなっているのではないかと懸念がある。市として、環境保全の立場から必要な要求を十分に行っていると胸を張って言えるのか伺う。</p>	

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	8	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60分	
質問事項				質問要旨		
1 子供の「幸福」日本1位について (1) 子供の幸福秋田県日本一について	① 心身の健康や幸福を示す「ウェルビーイング」について 2025年度時点の小中学生の状況を指標化して比べると、秋田県が全国で最も高いことが分かった。9指標の中で他地域に比べ高さが際立ったのが「地域を良くするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対する社会貢献意識の高さであった。 大変喜ばしい調査結果が示された反面、秋田県は人口減少率、出生率の低さ、若者世代の県外流出について全国でもワーストの状態にあるのが現実となっている。 子供の幸福日本一への見解と、それが出生率の改善や人口減少の歯止めにつながらない原因、また、そこから見える今後取り組むべき施策をどのように考えるか。市長・教育長それぞれの立場から伺う					
	2 通学時の安全確保について (1) 降雪時の道幅確保について	① 大雪に見舞われた昨年度、学校統合や熊対策を要因として保護者の車での送迎が増える中、徒歩による通学に対しても、雪による通学路の道幅減少により多くの危険個所が発生した。除雪オペレーターの確保や雪置き場の確保など、降雪オフシーズン中に取り組むべき課題が山積みとなり、できることから早急に対処すべきと考えるが現状と今後の対応について伺う。				
	(2) 建物倒壊や倒木防止について	① 昨年度の大雪により降雪期や雪解け時ともに、多くの建物被害や倒木被害が見られた。雪が消えた現状でも例年より危険度を増した建物や樹木が増えていると思われる。通学路におけるそれらの確認体制や危険除去の現状と今後の対応について伺う。また、地主や所有者による危険除去も従来の方策では、解決に至らないと思われるが、これらについても併せて伺う。				

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	8	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60分
質問事項			質問要旨		
(3)		監視カメラについて		<p>① 痛ましい事件や事故が起こるたび、都市部においては民間の監視カメラの設置数増加やドライブレコーダーの普及による犯罪防止効果、犯罪検挙率の向上が顕著に表れてきている。しかし、鹿角においては民間監視カメラ設置数は微増にとどまっているのが現実である。人口減少に伴い子供たちを見守る人の目も急激に減ってきている。この環境下で子供たちの安全を確保するためには、公による監視カメラの設置が必要と考える。また、設置効果として、一般の犯罪防止に加え高齢化が進む中での徘徊高齢者の早期発見捜索への寄与も期待できると考えられるが、設置の現状と今後の対応について伺う。</p>	
(4)		危険個所への街灯増設について		<p>① 人口減少が進み空き家が増え、今まで以上に明かりの乏しいエリアが増えている。特に日照時間が短い季節の通学路においては、暗さによる危険個所が増え街灯の増設が望まれる。市では多くの街灯設置要望を受けていると思うが、設置優先度や財源確保などの現状と今後の対応について伺う。 併せて、学校における生徒への反射材使用や服装の色への指導状況等についても伺う。</p>	
(5)		バス停留所の環境について		<p>① 学校統合に伴い、統合前に比べ圧倒的にバス停を利用する生徒が増えている。社会や大人の事情により就学環境が変わり利用生徒が増えたわけだが、弱者である子供たちに対し、バス停エリアの安全を確保するとともに雨・風・雪などをしのげる環境を整える必要があると考える。さらには鳥獣から身を守れる体制づくりも必要である。現状の取り組みと今後の対応について伺う。</p>	
(6)		送迎車乗降場所や駐車場の安全確保について		<p>① バス停留所同様に、学校統合によるもの、熊対策によるもの等、様々な要因で保護者の自家用車による送迎が増えている。車の乗降時、路上での安全なスペース確保や駐車場の狭さ・視界の悪さにより校舎玄関に近い乗降場の確保が困難な学校が複数存在し、一刻も早い改善が求められる。土地の確保や道路整備費用など、多くの課題を抱えていることは承知しているが、動き始めないと永遠に問題は解決しない。少子化が進むことによる状況変化も想定できるが、事故が起きてからでは取り返しがつかない。現状の取り組みと今後の対応について伺う。</p>	

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	8	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60分
質問事項			質問要旨		
		(7) GPS端末や携帯電話の所持について		① 子供たちを取り巻く環境は多様な変化を遂げ、危険要素も増えてきている。また、少子化が進み、複数で行動する光景も減ってきている。児童の所持率が上がってきている携帯電話等の機能による位置情報確認や緊急時の連絡などを利用した安全確保が進んできている。子供たちの機器の所持には経済的な問題など色々な事情が存在するが、安全確保の効果的なアイテムとなってきている。市内小中学校での取り組み状況や今後の対応などについて伺う。	
		(8) 鳥獣被害防止について		① 熊対策などについて、今年度以降の新たな取り組みについて伺う。また、最近出没が急増しているイノシシへ対応した安全確保も重要と考えるが、併せて伺う。	
3		幼児保育・教育施設運営について			
		(1) 保育園・こども園等での鳥獣被害防止について		① 小中高生に比べ自己防衛力の低い乳幼児に対する鳥獣被害防止は、100%大人が対応するしかない。保育園等の施設の周りにも熊などの出没が珍しくなくなってきている。職員の方々は圧倒的に女性の割合が多く、大変な苦勞をされており負担も多くなっていると聞く。そんな中でも、保護者が同行する通園時以外での安全確保は万全なものではなくてはならない。現状の取り組みと今後の計画等について伺う。	
		(2) 保育短時間ルールの柔軟対応について		① 保育園等に子供を預けるに当たって、就労時間の短さや職業訓練中、育児休業中などに当てはまる場合、保育の必要量が限られる保育短時間に区分される。その場合、保育開始時間が遅かったり、終了時間が早くなったりと保護者の生活時間とのずれが生じる。さらには、他の子供たちとの保育リズムの違いから子供自身に寂しさを感じさせてしまうことも考えられる。また、保育短時間であれば送迎の手助けができない家族の生活時間とのずれも生じ、不満の声も聞かれる。 子育て環境の充実を標榜している本市としては、もっと柔軟な対応をすべきではないか。さらには、鹿角市独自に全ての子供を保育標準時間で受け入れることができれば、出生率の改善や移住促進に好影響を与えることが期待できる。子供の人数が急速に減ってきている現状下であれば予算的にも対応可能と考えるが、これらについて市の考えを伺う。	

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	9	質問者	安保 真希	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
<p>1 市長就任1年を迎えての所感について</p> <p>(1) 市民との距離感について</p> <p>(2) 財政課題と政策判断について</p> <p>(3) 若手職員・組織文化について</p>				<p>① 市長就任から1年が経過した中で、市民の声をどのように受け止め、市政運営に反映してきたか。また、市長が掲げる「対話型市政」について、現時点でどのように自己評価しているのか伺う。</p> <p>① この1年の市政運営を通じて、就任前に描いていた政策や「やりたいこと」と就任後の現実との間に隔たりを感じているか。また、限られた財源で多様化する行政問題に対応するため、今後どの分野を優先して取り組んでいく考えか、市長の見解を伺う。</p> <p>① 若手職員の意見や挑戦が活かされる組織風土について、現状をどのように認識しているか。また、庁内における「前例踏襲」の課題を踏まえ、若手職員の提案やチャレンジを活かせる組織づくりをどのように進めていく考えか伺う。</p>	
<p>2 空き家対策は「雪国仕様」になっているか</p> <p>(1) 管理不全空き家等への対応について</p>				<p>① 本市では現在、管理不全空き家等をどのように把握し、どのような基準で対応を行っているか。</p> <p>② 相続登記の義務化は、令和6年から開始されているが、空き家に関する相談件数や相談内容に変化は見られているか。また、相続や所有者不明問題への対応を進める上で、弁護士や司法書士など専門家との連携をどのように行っているか伺う。</p> <p>③ 空き家対策特別措置法では、所有者への助言・指導にとどまらず、改善されない場合には修繕や解体を命じる「命令」や、市のホームページ上での氏名公表、さらには行政代執行まで可能とされている。本市として、危険空き家に対する実効性ある措置をどのように考えているか伺う。</p>	

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	9	質問者	安保 真希	質問所要時間	30分	
質問事項				質問要旨		
(2) 豪雪地帯における空き家対策について				<p>① 空き家からの屋根雪による落雪や、雪による道路閉塞などについて、市への通報・報告件数はワンシーズンどの程度あるか伺う。また、そのような通報等があった場合、市は空き家の所有者や管理者に対し、改善や適正管理に向けた通知・指導等をどのように行っているのか。</p> <p>② 豪雪地では、空き家問題は単なる景観や管理の問題ではなく、落雪での人身被害など生命や交通機能にも直結する課題である。「冬季危険空き家」を位置付けることで、事故の未然防止や迅速な安全確保につながると考える。</p> <p>市では条例に基づく緊急安全措置が規定されているが、豪雪地である本市では、屋根雪の落雪や雪庇の張り出し、積雪による建物倒壊など、冬季特有の危険が市民生活に大きな影響を及ぼすおそれがある。こうした危険性の高い空き家を「冬季危険空き家」と位置付け、雪害に特化した迅速な対応を可能とする条例改正を検討できないか、市の考えを伺う。</p>		

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	10	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
<p>1 今年度の除雪作業について</p> <p>(1) 除雪業者への意向調査結果について</p> <p>(2) 除雪事業者との信頼構築について</p>	<p>① 先月、当局において除雪事業者に対する意向調査を実施されたと伺っている。除雪事業者の高齢化や担い手不足、機械更新の負担など様々な課題がある中で、今後も安定した除雪体制を維持するためには事業者の意向把握が重要であるが、そこで今回の意向調査の状況と事業者からどのような意見や要望が寄せられたか伺う。</p> <p>① 除雪作業の維持は、行政と事業者との信頼関係によって成り立っているものと考えている。そのような中、事業者間では様々な意見があることも耳にしている。以前は当局と全除雪事業者による意見交換の場が設けられていたものの、現在は個別のやり取りが中心となり、全体会議の場がなくなってしまったことは非常に残念なことだとの意見も聞き及んでいる。</p> <p>個別協議にはきめ細かな対応ができる利点がある一方、全体での課題の共有、管内全体の効率化や負担軽減を模索し、相互理解を深める機会も重要ではないかと考えるが、今後、除雪事業者との全体会議や意見交換会などを開催し、さらなる信頼関係の構築につなげていく考えはないか伺う。</p>				
		<p>2 住民ドライバー制度の導入について</p> <p>(1) 八幡平地区におけるデマンド型タクシーの住民ドライバー制度について</p> <p>① 現在、八幡平地区ではデマンド型タクシーが運行されており、今後住民ドライバー制度の導入も検討されていると伺っている。</p> <p>住民ドライバー制度は、既存のデマンド交通を補完する役割が期待される一方、運行区域や利用対象者、また利用者とドライバーとの需給調整など、制度設計が重要になるものと考えているが、その点について市の考えを伺う。</p>			

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	10	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	30分	
質問事項				質問要旨		
(2) 住民ドライバー制度の子育て世代への活用について				① 近年、部活動の地域移行やスポーツ少年団活動に伴い、保護者の送迎負担が大きくなっており、非常に残念なことである。活動に参加させたいが、仕事の都合などで送迎が困難であることから継続を断念する事例や、そのような負担から下の子の活動に躊躇しているという声も聞こえてきている。 現在は保護者同士が善意で送迎を助け合っている例もあるが、毎回頼ることはできないという保護者の思いや、事故時の責任、燃料代の負担など課題もある。 少子化の中、出生数の増加が望まれるものの、子沢山であればあるほど負担が大きくなる現状の解決に向け、行政の支援が優先的に必要ではないか。そこで住民ドライバー制度を活用し、スポーツ少年団や地域クラブ活動における送迎支援へ展開していく可能性について、市の考えを伺う。		
3 熊対策について (1) ごみ集積場の熊誘引対策について				① 市は、誘引木の伐採や除去など積極的な対策を進めており、一昨年伐採した場所で去年は一度も見えていないなどの声も聞いており、一定の効果を感じている。 一方で、特に夏場は生ごみなどの臭いにより、ごみ集積場が熊を誘引する要因となり、集積場に熊によると思しき損壊が見受けられたところもある。北海道や長野県などで熊対策用ごみボックスの設置や集積方法の見直しが行われている。今後、ごみ集積場における誘引防止対策について、検討していく考えはないか伺う。		
(2) 熊の目撃情報のLINE発信について				① 現在、熊の目撃情報は、防災メール配信や県のクマダスなどを通じて市民に周知されている。その一方、市は公式LINEを運用しているが、熊の目撃情報が配信されないのはなぜか。 LINEはメール配信と違い、プッシュ通知でスマホの待ち受け画面へ即座に表示され、情報を伝えることができる。これは特に該当地域の方々の警戒対応や、住民同士の声かけの即時性につながると思うが、今後LINEでも発信する考えがあるか伺う。		

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	10	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	30分	
質 問 事 項				質 問 要 旨		
4		職員による管内の現場把握について		<p>① 市は、現在も多くの業務を担っているが、地域課題が複雑化する中、現場の実情を直接把握する重要性はますます高まっている。</p> <p>住民の声は、文章や数字だけでは見えてこない部分も多く、実際に現場へ足を運ぶことで初めて把握できる課題や気づきもある。また、現場に出向くことで解像度が上がるだけでなく、住民との信頼関係も深まり、行政施策の精度向上にもつながるものとする。</p> <p>市として職員の現場主義を今後どのように位置付けていくのか。また、地域の課題や要望をより深く把握し、産業振興、市民サービスなどの施策へ反映させるために今後どのような取り組みを進めていく考えか伺う。</p>		

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	11	質問者	松村 託磨	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
1				空き家発生前の相談支援と住まいの終活支援について	<p>① 空き家バンクは今年度から生活環境課の所管となり、現時点では新規受付を停止しているが、再開後、市民はどのような内容をどこまで相談できるのか。また、将来的に空き家となる可能性がある住宅についての事前相談も含めて対応していく考えがあるか伺う。</p> <p>② 空き家になってからの登録・利活用だけでなく、相続、管理、売却、解体、家財整理など、空き家になる前段階での相談支援を、予防的な施策としてどのように認識しているか、市の見解を伺う。</p> <p>③ 秋田県主催の空き家相談会等を含む既存の相談機会について、市としてどのように周知しているか。また、今後、市独自に住まいの終活や空き家予防に関する情報提供を、所有者本人及び市外家族の双方に届く形で強化していく考えがあるか、市の見解を伺う。</p>
2				地域活性化起業人等の外部専門人材の戦略的活用について	<p>① 政策企画課及び農業振興課における地域活性化起業人の活用について、市はそれぞれどのような役割を期待し、どのような成果や成果物をもって評価しようとしているか、市の考えを伺う。</p> <p>② 外部専門人材の知見を、採用した部局の個別事業にとどめず、他の政策分野にも広げていくことができれば効果は大きいと考える。 部局横断的な活用が難しいとすれば、その理由は国制度上の制約によるものか、それとも本市の契約、仕様、稼働時間、予算、庁内調整など運用上の課題によるものか伺う。</p> <p>③ 外部人材の任期終了後を見据え、得られた知見、データ、ネットワーク、業務改善の手法等を、市の組織内にどのように蓄積し、次の政策や事業に生かしていくか、市の考えを伺う。</p>

# 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	12	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
<p>1 部創設に伴う観光戦略について</p> <p>(1) 観光戦略における誘客と鳥獣被害対策について</p> <p>2 鳥獣被害対策を担う人材確保対策と公共サービス・地域産業への転換について</p> <p>(1) 若手ハンター育成のための実践型助成制度の新設について</p> <p>(2) 鳥獣対策を公共サービス・地域産業へと転換することについて</p>	<p>① 観光戦略部は、鹿角市の観光を伸ばすために創設された部署であると受け止めている。</p> <p>しかし、鹿角市の観光資源は自然と密接に結びついており、熊をはじめとする野生鳥獣リスクへの対応なくして、安心・安全な観光地づくりは成り立たない。誘客キャンペーンやPRに力を入れても、観光客が「行って大丈夫なのか」と不安を感じれば、実際の来訪にはつながらない。</p> <p>鳥獣被害防止や野生鳥獣リスク対策を農業被害対策にとどめず、観光戦略部として、誘客戦略、観光地の信頼性向上、インバウンド受入環境整備としてどのような戦略を立てているか伺う。</p>				
	<p>① 新規狩猟免許取得費用への補助は入口として重要だが、免許取得後に実際の鳥獣対策を担える人材へ育てるには、継続的な訓練と経験が必要であり、実践的な育成には相当の費用と時間がかかる。</p> <p>市として、若手ハンターの育成を猟友会に任せきりにするのではなく、射撃練習費、弾薬費、装備購入費、同行研修に対する謝礼、研修参加に伴う交通費等を支援する免許取得後の実践型の育成制度を創設する考えはないか伺う。</p>				
	<p>① 本市では若者の定着を重点課題とし、起業・創業支援、新たな仕事の創出、次世代を担う創業や新たな仕事づくり等の施策を掲げている。</p> <p>そこで、鳥獣対策と若者の定着施策を結び付け、鳥獣対策を単なる駆除や注意喚起にとどめず、若者が専門性を身につけて収入を得られる仕事として制度設計すべきではないか。</p> <p>例えば海外の国立公園におけるレンジャーのような仕事を作り出すことで、専門性が高く、今後の需要が大きく見込まれ、行政需要の高い分野に投資でき、併せて若者の起業・創業による地元定着も期待できると考えるが、このような地域特性に合った産業への転換を促すための制度設計を行う考えはないか伺う。</p>				

## 令和8年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	12	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	30分	
質 問 事 項				質 問 要 旨		
3		熊侵入防止対策と公共施設・商業施設のバリアフリー確保について (1) 自動ドアのボタン自動化へのニーズ調査と導入支援について		<p>① 市内公共施設や商業施設において、熊侵入防止のため自動ドアを手動化する対応が見られるが、高齢者、子供、車椅子利用者等の利便性低下が懸念される。市は実態を把握し、ボタン式自動ドアへの改修など、安全対策とバリアフリーを両立する支援制度を検討すべきではないか。</p> <p>自動ドアのボタン改修調査を行う考えはあるか。また、調査結果により支援制度の創設を行う考えはあるか伺う。</p>		